



立川談四師匠

公民館主催の落語会 大いに笑う

8月18日松尾公民館にて、立川談四「落語会」が開催され、約100人の聴衆が生の落語を楽しんだ。今回4年ぶり5回目とのこと。日頃の話や出来事をネタに笑いを誘い、演目に入っ

てゆく。演目は、「置泥」(弟子の只四楼)。「家に忍び込んだが、逆に金をせびられてしまう泥棒の噺。三年目」(談四楼)。「再婚したら化けて出ると夫と約束して死んだ先妻

が、夫の再婚後3年目によくやく化けて出た。遅くなった理由は葬儀の際に坊主にされた髪が伸びるまで待っていた」という噺。「紙入れ」(只四楼)。「若い男が世話になった旦那の奥さんと浮気が、旦那にばれそうになつたが奥さんが巧みにごまかした噺。「ぼんぼん唄」(談四楼)。「子供がいない小間物屋が偶然迷子を見つけ、実の親にすまないといいながら育てていたが、子供が遊びで唄った「ぼんぼん唄」がきっかけで実の親に返すことを決心し、親を捜し返した噺。これは古今亭志ん生の死後、

松尾小学校では、連日の猛暑により会場が校庭から体育館に変更され、低学年から順番に2学年ずつ講習を行った。まずは姿勢から、そして腕振り。生卵を握りつぶさない感じで手を握り、腕は90度をキープしたまま前後に大きく振る。そのことを青戸先生は「生卵90度」と何度も叫んでいた。次に「早歩き」と「走る」の違いについて話を聞き、子供たちは一列に並んで体育館の隅から隅まで全員で歩いた。続いてもも上げ。ももを床から水平になるまで上げてから紙風船を踏み潰すイメージで強く下ろす。等々100回を速く走るために大事なポイントを受講した。「走る時は笑顔で、毎日の学校の行き帰りにも出来るので練習

も出ていた噺を談四楼師匠が発見したが半分しかなく、残りを創作し再び世に出した。師匠はインタビューにも気さくに応じてくれた。落語界に入ったのは故立川談四師匠に憧れて。「何度も断られやと入門したが、六十数人いた弟子も3分の1しか残らない程厳しかった。話し方はどことなく談志師匠に似ている。師匠を目指して修行したので似てきたという。現在、談四師匠には6人の弟子がいる。弟子も次第に談四師匠に似てくるだろう。芸は人に継がれる。

生卵90度で 足が速くなる!?

オリンピック選手とスポーツ



元オリンピック選手で男子100mの元日本記録保持者、青戸慎司先生による走り方講習会が7月19日松尾まちづくり委員会・公民館育成部の主催、飯田病院陸上部と飯田市スポーツ推進委員の参加協力

で松尾小学校と緑ヶ丘中学校において行われた。青戸先生は「生卵90度」と何度も叫んでいた。次に「早歩き」と「走る」の違いについて話を聞き、子供たちは一列に並んで体育館の隅から隅まで全員で歩いた。続いてもも上げ。ももを床から水平になるまで上げてから紙風船を踏み潰すイメージで強く下ろす。等々100回を速く走るために大事なポイントを受講した。「走る時は笑顔で、毎日の学校の行き帰りにも出来るので練習

も出ていた噺を談四楼師匠が発見したが半分しかなく、残りを創作し再び世に出した。師匠はインタビューにも気さくに応じてくれた。落語界に入ったのは故立川談四師匠に憧れて。「何度も断られやと入門したが、六十数人いた弟子も3分の1しか残らない程厳しかった。話し方はどことなく談志師匠に似ている。師匠を目指して修行したので似てきたという。現在、談四師匠には6人の弟子がいる。弟子も次第に談四師匠に似てくるだろう。芸は人に継がれる。

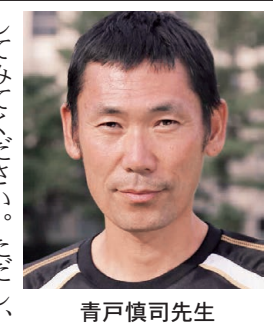
今年、日本を襲った記録的な猛暑。飯田市でも、8月の最高気温が37.7℃、1カ月の平均最高気温が33.1℃と、1946年の統計開始以降で最も高かった。また、35℃を超える猛暑日数が22日、30℃を超える真夏日が60日と、平年を大きく上回った。原因は、太平洋高気圧とチベット高気圧がともに日本付近に張り続け晴天が続いたことによるもの。飯田市では、保育園・小中学校にエアコンを設置したり、校外活動を室内に変更したりと、熱中症対策がとられた。松尾地区の緑ヶ

丘中学校でも、7月中旬から夏休み明けまで部活動が停止となった。気象庁によると、この猛暑は今年だけでなく長期的に続く見通しであり、来年も早めの暑さ対策が必要とのこと。熱中症対策としては、こまめな水分と適度な塩分補給を行うとともに、エアコンで室内気温の管理をすることが大切で、特に高齢者や年少者は熱中症を発症しやすいため、家族の配慮が必要となる。松尾地区は飯田市の中でも気温が高い地域のため、日中だけでなく夜間も注意したい。



発行所 飯田市松尾公民館
編集人 松尾公民館広報委員会
印刷：龍共印刷(株)

松尾小学校では、連日の猛暑により会場が校庭から体育館に変更され、低学年から順番に2学年ずつ講習を行った。まずは姿勢から、そして腕振り。生卵を握りつぶさない感じで手を握り、腕は90度をキープしたまま前後に大きく振る。そのことを青戸先生は「生卵90度」と何度も叫んでいた。次に「早歩き」と「走る」の違いについて話を聞き、子供たちは一列に並んで体育館の隅から隅まで全員で歩いた。続いてもも上げ。ももを床から水平になるまで上げてから紙風船を踏み潰すイメージで強く下ろす。等々100回を速く走るために大事なポイントを受講した。「走る時は笑顔で、毎日の学校の行き帰りにも出来るので練習



青戸慎司先生

今年、日本を襲った記録的な猛暑。飯田市でも、8月の最高気温が37.7℃、1カ月の平均最高気温が33.1℃と、1946年の統計開始以降で最も高かった。また、35℃を超える猛暑日数が22日、30℃を超える真夏日が60日と、平年を大きく上回った。原因は、太平洋高気圧とチベット高気圧がともに日本付近に張り続け晴天が続いたことによるもの。飯田市では、保育園・小中学校にエアコンを設置したり、校外活動を室内に変更したりと、熱中症対策がとられた。松尾地区の緑ヶ

「地域活動やボランティア活動に積極的な高齢者ほど認知症になりにくい」。そんな分析が報告された。愛知県の65歳以上の高齢者1万人超を10年間追跡調査して、解析された結果を早稲田大などの研究グループがまとめたものだ。統計学的処理の結果、前期高齢者の場合、なんらかの地域活動参加者に比べて、地域活動不参加者の認知症発症のリスクは約2割増。一方で地域活動にリーダーや役職としての参加者の認知症リスクは約2割減との報告だ。この研究は日本老年学的評価研究プロジェクトの一環として行われたもので、先行研究では、若いうちから地域活動をしていると良好な健康状態が維持されることも証明されている。▼公民館や分館の活動の一端を担わせてもらっている者としてとても心強い研究結果だ。健康志向や認知症予防への関心が高まる中、人にも自分にも良い活動をしていると思えばやりがいにも繋がる。中には地域活動を煩わしいものとして敬遠する人もいるだろう。でもこ

人物さんぽみち

109



25年間を振り返る「身辺雑記」を自主出版

代田区 下條啓市さん(70歳) 代田区の下條さんは、6月に約25年間書き溜まった原稿を『身辺雑記』として出版した。下條さんは、40代で区より公民館役員として広報委員に選出され、11年間務めるなかで委員長も3年程経験した。それまで文章をほとんど書いたことがなく、担当した原稿を真っ赤に校正され、これではいけないと思ひ市立中央図書館の文章講座に参加した。そして、現在に至るまで講座で学んだ仲間などとの勉強会で文

章作成を続けている。好奇心旺盛な下條さんは、多趣味で現在も魚釣りや山菜採り、蜂捕りをし、20歳から加入したソフトボールも継続中である。また、区の役員や、氏子総代なども歴任し、地域社会とのかかわりも深い。したがって、文章を書く題材に事欠かないのである。こうして、100編ほどの文章が溜まり、本棚に置かれていたのを奥さんが見つけ、「読めばおもしろいから、捨てるのももったいない」と勧められて出版した。今年、年番長の下條さん。「幸い飯田下伊那は、災害がなかった。祭では威勢よく、盛大に行ってもらいたい。今後の存続については、改革を検討していかねばいけないと思う」と言い、「あと1、2年身体の動けるうちは魚釣りや山菜採りなど続けたい」と元気がいいのである。

松尾の人口
男子 6,189人
女子 6,836人
計 13,025人
世帯数 5,050世帯
8月末現在

いい大人形劇フェスタ 2018

人形劇が生まれて40年、今年もたくさんの人形劇団が松尾にやってきた

毛賀区

毛賀人形劇フェスタ

8月4日毛賀区民会館では、緑ヶ丘中学校「みどり座」による『おもちゃ大作戦』と、劇団「風花座」のブ



「風花座」のブラックライトパネルシアター

ラックライトパネルシアターによるピアノ音楽劇『どんぐりと山猫』（宮沢賢治原作）が上演された。

風花座はブラックライトパネルシアターを使い、小学5年生の娘の巧みなピアノに合わせて親が人形を操

当日、「ぼお」の登場で子供たちは写真を撮ったり触れたりで大はしゃぎであった。公演終了後は、出演者と毛賀区スタッフによる交流会が開催された。緑ヶ丘中学校劇団員は、劇団「風花座」の2人に演技について、声の出し方など質問をし指導を受けていた。

松尾公民館



「青鬼妖怪や〜」

手作り人形と言葉の洪水のパペット落語
8月3日に松尾公民館で笑福亭鶴笑さんの「パペット落語」に110人が来場して笑いを楽しんだ。

「おぼあちゃん長生きの秘訣は何ですか？」「テレビを見ることで、朝昼晩と同じ内容を放送しているが、昼間の放送を見ているのかと聞くと「昼間の方が上手になつ」と、大阪弁で休む間もなく言葉の嵐。

落語の途中で紙切りもあり、「紙を切るときに何故ハサミだけでなく体を動かすか」という問いに「紙を切るときは、鶴笑さんの手作り。人形の絶妙な掛け合いと大阪弁で笑いを誘い、拍手喝采の中で上演が終わった。

のかという、地味な感じで」と話し来場者の笑いを誘った。

新井区



上演後人形とふれあう子供ら

8月4日新井区コミュニティ消防センターで、14人の観客を迎え、「人形劇団寺小屋」の『3びきのやぎのガラガラドン』と「にんぎょうげきだん つきほたる」による『れいけんはやたろう』の2公演があつた。

第2部の『れいけんはやたろう』は信州駒ヶ根に古くから伝わる霊犬早太郎を題材にした作品で、演者の男性が1人で何役も演じ分け、舞台裏のキーボード生演奏も抜群の臨場感で観衆を惹きつけていた。

早太郎の大型人形は思わず抱きしめてしまいたいような可愛らしさがあったが、もう一体のぼけものとも闘う早太郎はキリッとしていて、勇敢な霊犬と呼ばれるにふさわしい姿もあった。



上演後に人形と触れ合うサービスも

アイディアに富んだ演出で観客は終始引き込まれ、会場は大いに盛り上がった。

上溝区



人形劇団「お伽ラッぱ」オリジナル曲にあわせ、奇想天外な動きで観客を光と影絵によるメルヘンの世界へ誘った。

「ゴキゲンな人形劇」に子供たちもごきげん
上溝集会所では、8月4日、京都の人形劇ユニット「パペットてなもんや」の『ゴキゲンな人形劇』が上演された。ステージではキャストの田中直子さんと辻野明子さんの操る、セリフのながった。また、関西弁でテンポの良いパペット人形の追いかけてこには大きな歓声が上がった。飯田での公演が10年を超えると言う、「パペットてなもんや」代表の田中さんは「今年もとってもいい会場で子供たちも熱心に人形劇を観てくれてよかった」と話した。



飛んでけー!!風船ロケット(八幡町区)



巨大マンボウ上がったよ(清水区)



回る風船の中心を飛び越える(城區)

みどり座8人の団結力
奇想天外な動きに魅了される
8月5日清水区コミュニティ消防センターで80人の観客が人形劇を楽しんだ。

緑ヶ丘中学校の「みどり座」は、自分たちの教訓を基に「物を大切にすることをテーマにしたオリジナル作品「おもちゃ大作戦」を公演。
人形を一から製作し、6月より練習を始め、みんな意見を出し合い台本を何回も修正しながら当日を迎えることができた。懇親会では部長より「2公演を経験し、みんなの団結力が強くなった。9月の文化祭、11月の伊那谷芸術祭に向けお客様に楽しんでもらえるよう頑張りたい」とのことであった。

7月29日清水区コミュニティ消防センターで60人の児童が参加し、出張サイエンスが行われた。飛ぶものシリーズで風船や熱気球などをを使い空気や熱気球を温めると軽くなるなどの実験が行われた。

直径50センチの大きな風船には約1立方メートルの空気が入り、牛乳パック1本分の空気や重さを体験。約1畳の巨大風船マンボウにドライヤーの温かい空気を入れて、浮かせる実験をした。次に30個つなげた風船リングに送風機で回転させ1〜6年生の児童が元気よくリングをくぐり抜け、会場は熱気と笑顔に包まれた。

清水区

風船と空気で色んな事を体験したよ

その後、手作り風船ロケットを作った。筒状のロケット胴体を作成するのが一番難しく、皆で教えあう姿も見られた。最後には学年別風船ロケット飛ばし大会。色々な形のロケットがあり、小学3年生の男子は「作るのが難しかったけどロケットを遠くに飛ばすことが出来て楽しかった」と笑顔で答えた。この夏は松尾地区の5地区で松尾サイエンスによる出張サイエンスが行われた。7月8日上溝区で56人、7月28日八幡町区で32人、同日城區で56人、8月5日水城區で29人の幼稚園児、保育園児、小学生らが科学実験体験した。なお代田区は台風到来のため中止となった。

水城区

「母べえ」撮影監督 長沼六男氏来る

7月14日水城コミュニティセンターにおいて「母べえ」の上映会が行われた。



六男氏のトークショーが開かれた。「母べえ」は平成19年に松尾公民館旧講堂でロケが行われ、松尾小学校の教師、児童もエキストラとして参加した。

飯田工業高校時代の電気屋のアールバイトで旧講堂を知っていたことや、撮影監督の仕事、現場の話、また山田洋次監督や吉永小百合さんのことなど、親しみやすい雰囲気でお話された。

城 区

熱演に拍手喝采！

7月15日城區サマーフェスティバルが城區集会所で開催された。

5時から芸能祭がスタート。新設されたエアコンの涼風の中、総勢10組による、歌や踊り、ゲームや演奏などが披露された。



会場の皆さんとYMCA！

「ヒーロー」は、その熱演からアンコールの音が飛び、夏の暑さが吹き飛ばすような盛り上がりを見せた。

寺所区

灼熱から逃れて 星空を体験



寺所区福祉部主催で毎月行われている健康の集いで、今回は7月23日に「プラナタリウム観覧とお食事会」が開かれ、女性中心に19人が参加した。

2018 夏の日のスケッチ

代田区

猛暑に負けず マレット

7月15日、松尾マレットゴルフ場にて、代田区マレットゴルフ大会が行われ、小学生から92歳までの44人が参加した。

この日は抜けるような青空で、朝からぐんぐん気温が上がって37度ほどになる中、熱中症予防にペットボトルのお茶や塩飴や漬物が振る舞われた。

ゲームが進んでいった。「暑い」「これだけ汗をかくと逆に気持ちいい」「今年から会場が変わったので気分も変わり、良かった」と口々に話していた。

ふれあいひろば *ラフティング体験教室 7月14日にラフティング体験教室が参加者16人のもと行われた。

常盤台区

スイカ割り大会 常盤台納涼祭



7月29日、常盤台区納涼祭が開催された。台風一過のこの日、時折突風の吹く中、午前11時から公園内に設けたテントで、かき氷、フライドポテトなどの屋台が開店、全戸配布されたチケットを持った区民で長い行列ができた。

壮年会による焼きそば、焼き鳥の屋台も大盛況で、汗だくになって対応していた。

松尾図書館 (公民館2階) 開館日 水曜 午後1～5時 土曜 午前10～午後5時 日曜 午後1～5時

毛賀区

認知症を知り、地域で支える

毛賀分館(高橋雅臣分館長)は7月1日、飯田市社会福祉協議会かわし地域包括支援センターの職員を講師に招き、「毛賀講演会」を毛賀区民会館で開いた。

毛賀区民約100人が出席。認知症を知り、地域で支える」をテーマに、講師は認知症を正しく理解することの重要性を強調。主な原因や代



病的な症状を解説し「早期に病院にかかれれば薬で治すことができる。『どうせ治らない』と諦めないで」と呼び掛けた。予防については「生活習慣病の予防が認知症にも効果的」とし、適度の運動やバランスの良い食事を心掛けることを求めた。

025年がピークを迎え、75歳以上の5人に1人が介護を受けるといわれている。患者や介護する家族を地域で支えることが出来ないか、考える機会にしてみたい、と話していた。

まつお新聞243号2面に掲載されている平成30年度推進会議役員に「特別推進員 松尾地区民生児童委員 協議会長 佐々木尚様」が記載されており、お詫びして訂正いたします。

地域コミュニティの大切さ

松尾地区市政懇談会



緑中1年生4人による学習発表

松尾地区の市政懇談会が7月20日松尾公民館ホールで行われた。

懇談会1部は牧野光明市長の講演で、市政経営方針と平成30年度の主な行政内容について説明があった。すでに飯田市が取り組んでいる「田舎へ還ろう戦略」については、地育力による人材育成のサイクルと各地区の具体的な取り組みの例を述べ、コミュニティの大切さを力説した。またリニアについては関連した整備の現在の進捗状況を説明した。

懇談会2部の松尾地区の事例発表では、緑ヶ丘中学の生徒による学習発表があり、公民館育成部からは広報委員長よりまつお新聞「ようこそ松尾へ」の取り組み発表がされ、地区からは毛賀やらまい会と明区両壁儀の会がそれぞれ活動報告をした。緑ヶ丘中学校の1年生4人による学習発表は、今までの地域との関わりを振り返り、地域活動の意義や必要性は何か、地域の改善点、これから自分たちが地域の一員として具体的に何ができるかなど、2カ月をかけて学年で学習した内容で、会場には生徒が個々に書いた「松尾地区への提

案」もパネル展示された。地域課題に関する懇談では、松尾地区まちづくり委員会が組合の新規加入者が年々減っている現状を報告し、情報提供の協力を市に要請した。市からは「個人情報保護の観点から難しい点はあるが、検討していきたい」との回答があった。また、治水水害対策について、浸水想定地域の住民にハザードマップが配布されていない、災害時に内水排除用のポンプ車を設置する堤防に不安があるなど、市への苦言も呈された。

その他、竜水地区の産業道路の拡幅整備や、南信州広域連合が検討している屋内体育館の松尾地区誘致などの要望も寄せられ、市からは「飯田市だけで決めることは出来ない案件でもあるので、県や他の町村とも協議しつつ検討していきたい」と回答があった。

大地震に備えて

地震総合防災訓練

9月2日8時00分大地震が発生したことを想定し訓練開始。自治振興センターに災害対策本部を設置、8時20分開設した。各区からの安否確認を無線連絡で行ったところ、無線がつながりづらいところがあったり、

ようこそ松尾へ

久井区 富永亜記さん

今回は4月に久井区に引っ越して来られた富永亜記さんにインタビューしました。富永さんは夫と小学1年生の双子と3歳の男の子の5人家族。築21年になる借家にお住まいです。



富永亜記さんとご主人、3人のお子さん

Q 出身地はどこですか？
A 神戸市です。夫は駒ヶ根市です。

Q 以前はどこにお住まいでしたか？
A 結婚してから、夫の転勤で松本市、所沢市、埼玉、中野市、伊那市、諏訪市と、1、2年のスパンで引っ越してきました。

Q なぜ松尾へ？
A 夫の職場から20分以内という条件の中で、家族5人で暮らせる物件がたまたまここでした。

Q 松尾の印象はいかがですか？
A 地区のまとまりがありませんね。これまでも組合に加入してきましたが、歓迎会を初めて開いたのは、お子さんが入学したときです。河川清掃の前に区民の皆さんの前で紹介していたり、子育てが終わった世代の方々が声をかけてくれたり、とても温かく迎えていただき嬉しかったです。

Q 松尾に望むことはありますか？
A 子供たちはカニやドジョウやカブトムシがいて大喜びですが、安心して自転車に乗れる場所があるといいですね。今、補助輪無しで乗れるようになったところなんです。

報告内容が区毎に揃っていないことがあった。被災状況の報告では、久井トンネルののり面崩落、バイク隊が現地調査要請を受け出動するも、対策本部内で場所の特定が違っていたり、被災場所がわからなかったりといくつかの問題点が生じた。

安否確認では松尾地区の組合加入数の90%が確認でき、高い参加率の訓練となった。また今回は防災訓練として



発電機を使ったバルーンライト点灯訓練

初めて緑ヶ丘中学校から約20人の生徒が訓練に参加し、松尾小学校の防災倉庫にあるバルーンライトを実際に発電機を使って点灯する訓練も行った。カセットコンロ用のガスを使って発電機を始動するとバルーンライトが点灯しゆっくりと膨らんでいった。

最後に公民館和室にて反省会を行った。中学生からは、防災訓練の時にどんなことをしているのか、災害時に自分たちが何をすればいい



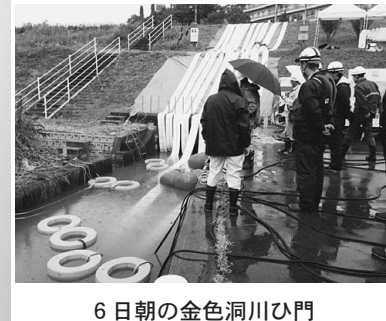
製作中の牧野教諭

松尾地区の中学生が通う緑ヶ丘中学校図書館の廊下には、一年を通して色彩豊かな掲示物が数多く貼りだされる。その情報量は学校図書館としては殊のほか多く、また内容も様々だ。

2年生の職場体験の時期には色々な職業とそれに従事する人々の紹介が並び、また3年生の進路決定の時期には飯伊の高校の紹介や行事内容が掲示される。防災の日に合わせて毎年9月には東日本大震災や熊本地震の新聞記事を掲示し防災を呼びかけている。今年の7月には松尾地区在住の写真

図書館は情報発信の拠点

緑ヶ丘中学校、図書館は情報発信の拠点。家・三浦泰明さんに作品提供を依頼、南信州打ち上げ花火の写真を多数展示した。これらの掲示物は、図書館司書の牧野優子教諭が、毎日の新聞等の切り抜きや資料をテーマ別に分け、手作りで作成したものだ。生徒のみならず教師たちからも好評で、掲示物をもとに学習がされることもある。



6日朝の金色洞川ひ門

避難勧告発令!

7月5日17時、飯田市のレッドゾーン及び清水地区(祝井沢川沿いの13世帯41人)に、避難勧告が発令された。これを受け、清水区では自主防災組織連絡網にて全区民への避難勧告と避難場所を伝えた。毛賀区では区により対象世帯の安否確認が行われ、清水区は17時45分災害対策本部が開設された。特に祝井沢川と金色洞川

の河口では天竜川の水位が上昇したことから内水排除の実施に向けた準備が進められ、清水区及び毛賀区においては深夜に及ぶ警戒態勢がとられた。